

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ビジネス能力検定講座（サービス接客資格）	
対象学生	総合福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	30コマ	2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	ビジネスマナー（あいさつ、正しい敬語の使い方、ビジネス用語など）を身につけ、コミュニケーションスキルを向上させる。また、電話応対、ビジネス文書の作成の演習を通し身につける。	
授業の到達目標	講義と演習を通して、仕事に取り組む姿勢を理解するとともに、社会人として必要なビジネスマナーを身につける	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	ビジネス検定ジョブパス3級公式テキスト、公式試験問題集	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
仕事への取り組み方		1
仕事の基本となる8つの意識		1
コミュニケーションとビジネスマナーの基本		1
報告、連絡、相談		1
話し方と聞き方		1
来客応対と訪問の基本マナー		1
会社関係での付き合い		1
P C、電子メールの活用		1
ビジネス文書		4
電話応対		4
統計データの読み方・まとめ方		1
情報収集をメディアの活用		2
日本経済の基本		1
ビジネス用語		2
スピーチ実習		4
試験対策		4
合計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	認知症の理解Ⅱ	
実務経験	介護福祉士養成施設教員	
対象学生	総合福祉学科2年	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	認知症について理解し、認知症ケアの基本的知識が深まる。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	最新 介護福祉士養成講座テキスト 第13巻「認知症の理解」 視聴覚教材	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 認知症ケアの理念と視点		2
2. 認知症ケア 4つのかわりの原則		1
3. 認知症当事者の視点からみえるもの		1
4. 認知症ケアの実際 ～パーソンセンター・ド・ケア～		1
5. 認知症ケアの実際 ～センター方式～		1
6. 認知症ケアの実際 ～ひもときシート事例演習～		1
7. 認知症の人へのケア		1
8. 認知症の人々へのさまざまなアプローチ		3
9. 認知症ケアの環境づくり		1
10. 家族への支援		1
11. 介護者支援		1
12. 認知症の人の地域生活支援		1
合 計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	認知症ケア指導管理士資格講座	
実務経験	別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科 2 年生	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	認知症ケア指導管理士試験（初級）の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	試験対策としてポイントを各自復習	
使用教科書・教材・参考書	改訂版 認知症ケア指導管理士 公式テキスト他 練習問題配布	
授業上の注意点	用語などは都度確認しながら学習を進める	
授業計画（内容）		コマ数
1. 認知症高齢者の現状		1
2. 認知症の医学的理解		1
3. 認知症の心理的理解		1
4. 認知症ケア理念と認知症ケア指導管理士の役割		1
5. 認知症ケアの実践		1
6. 日常生活支援		1
7. 認知症への薬物療法		1
8. 認知症への非薬物療法		1
9. 家族への支援		1
10. 認知症ケアにおける社会資源 （医療保険制度、介護保険制度、公的年金制度、生活保護制度、成年後見制度と日常生活自立支援事業、高齢者虐待法、悪徳商法とクーリングオフ制度）		2
11. 認知症の人に対する医療サービス・保健福祉施策		1
12. 各種のインフォーマルサービスと地域における支援		1
13. まとめ（確認問題）		2
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	
実務経験	介護福祉士養成施設教員	
対象学生	総合福祉学科 2 年	
授業時間数・単位数	30コマ	2 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	ケアのプロセスとしてますます求められる対人関係の感性と能力を磨くためのコミュニケーション力が理解できる。	
成績評価方法と基準	出席15%、科目試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	授業で学習したことを日常生活においても意識して活用してみましょう。	
使用教科書・教材・参考書	最新 介護福祉士養成講座テキスト 第5巻「コミュニケーション技術」 麻生塾ケア・コミュニケーション研究会 「介護スタッフのためのケア・コミュニケーション」株式会社ウイネット	
授業上の注意点	演習には主体的に参加しましょう。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護におけるコミュニケーションとコミュニケーションの対象		1
2. 援助関係とコミュニケーション		1
3. コミュニケーションの基本技術 ①コミュニケーション態度に関する基本技術		1
4. コミュニケーションの基本技術 ②目的別のコミュニケーション技術		1
5. コミュニケーションの基本技術 ③集団におけるコミュニケーション技術		1
6. コミュニケーション障害への対応の基本		1
7. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援		1
8. 家族とのコミュニケーション		1
9. 家族関係と介護ストレスへの対応		1
10. 介護におけるチームのコミュニケーション		1
11. 報告・連絡・相談の技術		1
12. 記録の技術		1
13. 会議・議事進行・説明の技術		1
14. 事例検討に関する技術		1
15. 情報の活用と管理のための技術		1
16. 苦情やクレームに対応する		3
17. わかりやすく説明し、同意を確認する		3
18. 主体的な選択や行動を引き出す		3
19. チームの一員として仕事を進める		3
20. 建設的でさわやかに対話する		3
合計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護過程Ⅲ	
実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 2 生	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域の介護過程としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる能力を習得する。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護過程の実践的展開①		3コマ
2. 介護過程の実践的展開②		3コマ
3. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例 A		4コマ
4. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例 B		4コマ
5. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例 C		4コマ
6. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例 D		4コマ
7. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例 E		4コマ
8. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例 F		4コマ
合計		30コマ
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	メンタルケア概論	
対象学生	総合福祉学科2年生、社会福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	基礎心理学を中心にこころのメカニズムを知識として理解し、医療・福祉・教育・産業等での相談援助及び心理カウンセリング業務やコミュニケーション向上で求められる応用能力を培う。	
授業の到達目標	メンタルケア心理士又はこころ検定の取得を通してメンタルケアに関する知識を習得できる。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	検定試験対策問題の復習を行うこと	
使用教科書・教材・参考書	メンタルケア学会編集「メンタルケア心理士」 こころ検定対策問題集	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 学習ガイダンス、生化学基礎（染色体と遺伝子、たんぱく質、酵素、脂肪、炭水化物）		1 コマ
2. ストレス学基礎（ストレスと身体の反応、心理学的研究）		1 コマ
3. 解剖生理学 組織・器官、骨格・筋肉		1 コマ
4. 消化器系		1 コマ
5. 循環器・血液・リンパ系		1 コマ
6. 呼吸器、泌尿器、生殖器		1 コマ
7. 感覚器、内分泌系		1 コマ
8. 脳・神経系		1 コマ
9. 生理心理学と認知心理学（感情、脳波、睡眠・夢、時間感覚、記憶）		1 コマ
10. 薬理学基礎		1 コマ
11. 精神医学の歴史		1 コマ
12. 精神疾患の分類		3 コマ
13. 発達心理学（発達課題、愛着の形成、アイデンティティの形成）		3 コマ
14. 発達・睡眠・摂食・性格における障害		3 コマ
15. 身体疾患と精神症状		3 コマ
16. 薬剤論		3 コマ
17. カウンセリング基礎知識		1 コマ
18. カウンセリングにおける倫理		1 コマ
19. 心理療法基礎		1 コマ
20. ケーススタディ		1 コマ
合計		30コマ
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活と福祉	
担当者の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	生活の構造や生活の質の評価の理解を深め、次世代や生活上の問題に直面している人々に対する支援を考えるとともに、他者に対する生活実践力を付与するための意識づけができるようになる。	
授業の到達目標	生活経営に関する基礎的な知識を習得し、生活問題に対する支援を考えることができる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	各節末のワークシートを作成しておく。	
使用教科書・教材・参考書	中川英子編著「新版 福祉のための家政学―自立した生活者を目指して―」建帛社 国民生活センター「2019年版 くらしの豆知識」	
授業上の注意点	積極的に授業に参加し、生活課題について考察する。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 家族の意義と機能		1コマ
2. 世帯から見る家族の変化		1コマ
3. 結婚・離婚・子育てをめぐる変化		1コマ
4. 家族と法律（家族間の権利義務、相続と遺言）		1コマ
5. 生活史（生活史の意義と効果）		1コマ
6. 生活史の聞き取り		1コマ
7. 経済と家計		1コマ
8. 経済社会の変化と消費者問題		1コマ
9. さまざまな手口を使う問題商法		1コマ
10. 消費者のための法律や制度（安全に関するマーク、洗濯表示、クーリングオフができる取引）		1コマ
12. 生活時間と家事労働		1コマ
13. 社会的ネットワーク（子育て・介護に関する社会的ネットワーク）		1コマ
14. 生活福祉情報		1コマ
15. シニアライフを楽しむための生活の管理		1コマ
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活支援技術Ⅲ（調理実習）	
実務経験	管理栄養士として事業所等での実務経験	
対象学生	総合福祉学科２年	
授業時間数・単位数	２０コマ ・ １単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	衣食住の「食」を実践的に学習する。	
授業の到達目標	「食生活」に関わる実践力を身につける。	
成績評価方法と基準	授業態度、出席状況、安全に演習へ参加することが出来るかを、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	資料は都度配布	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
授業計画（内容）		コマ数
１．調理実習①		２
２．調理実習②		２
３．調理実習③		２
４．調理実習④		２
５．調理実習⑤		２
６．調理実習⑥		２
７．調理実習⑦		２
８．調理実習⑧		２
９．調理実習⑨		２
10．調理実習⑩		
合 計		２０
授業単位数		１

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活支援技術Ⅳ	
実務経験	特別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科 2 年	
授業時間数・単位数	30コマ ・ 2単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	実務者研修での学習を振り返り、演習形式にて介助者・利用者役を体験的に学習する。	
授業の到達目標	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力の引き出しを行うとともに、適切な介護技術を用いて、安全な援助技術を習得する。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	生活支援技術（中央法規出版）他	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 住環境の整備（演習）		2
2. 睡眠における介護技術（演習）		2
3. 身じたくの介護～整容における介護		2
4. 身じたくの介護～口腔ケア		2
5. 身じたくの介護～衣服の着脱		2
6. 移動の介護～安全で的確な移動・移乗の介助の技法（演習） ②歩行の介助の技法 ③車椅子の介助の技法 ④ベッド上の移動の技法 ⑤体位変換と安楽な体位の保持		4
7. 食事の介護～利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 （感覚機能低下、運動機能低下、認知・知覚機能低下、誤嚥・窒息の防止、脱水の予防）		2
8. 排泄の介護～安全で的確な排泄介助の技法 ①トイレ ②ポータブルトイレ ③採尿器、差し込み便器 ④おむつ		2
9. 入浴・清潔保持の介護～状態・状況に応じた安全で的確な技法（演習） ～清拭、入浴、シャワー浴、洗髪～		4
10. 終末期の介護の基本的視点		2
11. 終末期の心身の状態・QOLを高めるための援助		3
12. 終末期における利用者および家族への支援		3
合 計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	発達と老化の理解Ⅱ	
実務経験	介護福祉士養成施設教員	
対象学生	総合福祉学科 2年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要		
授業の到達目標	発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基本的な知識を習得する。	
成績評価方法と基準	試験及びレポート80%、学習への取り組み20%	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	【講義時使用テキスト】 最新 介護福祉士養成講座テキスト 第12巻「発達と老化の理解」 【参考文献】 医学一般／メヂカルフレンド社、得意になる解剖生理／照林社 人体の構造と機能／メディカ出版、体の地図帳／講談社	
授業上の注意点	授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 人間の成長と発達の基礎的知識	～成長・発達の考え方	1
2. 人間の成長と発達の基礎的知識	～成長・発達の原則・法則	1
3. 人間の成長と発達の基礎的知識	～成長・発達に影響する要因	1
4. 発達理論		1
5. 発達段階と発達課題		1
6. 身体的機能と成長と発達		1
7. 心理的機能の発達		1
8. 社会的機能の発達		1
9. 老年期の特徴と発達課題		1
10. 老年期にともなう身体的な変化と生活への影響		1
11. 老年期にともなう心理的な変化と生活への影響		1
12. 老年期にともなう社会的な変化と生活への影響		1
13. 高齢者の症状・疾患の特徴		1
14. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点		1
15. 保険医療職との連携		1
合 計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	障害者支援論	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	多様な生活課題への専門分化された対応に関する知識を習得しつつ、地域社会での協働した課題解決に向けた取り組みを体系的に考える。	
授業の到達目標	障害者総合支援法等の障害支援法規の体系的理解と、現在の生活支援の課題及び解決するための取り組みを学習し、基礎となる倫理観や視点を理解する。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	次回の学習内容の予習を行う。	
使用教科書・教材・参考書	社会福祉学習双書2019「障害者福祉論」	
授業上の注意点	積極的に授業に参加し、生活課題について考察する。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 国際連合「障害者の権利に関する条約」と人権思想		1コマ
2. ノーマライゼーションとリハビリテーション		1コマ
3. ICFの特徴		1コマ
4. 障害モデル		1コマ
5. 障がい者制度の目的		1コマ
6. 障害者の実態		1コマ
7. 障害者の生活実態		1コマ
8. 障害者をめぐる基本的な法律の概要		1コマ
9. 障害者総合支援法とサービス体系		1コマ
10. 障害者の福祉・介護ニーズ		1コマ
12. 他職種連携・ネットワーキングの実際		1コマ
13. 身体障害者への支援事例		1コマ
14. 知的障害者への支援事例		1コマ
15. 精神障害者への支援事例		1コマ
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護の基本Ⅲ	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 ２年生	
授業時間数・単位数	１５／３６０ コマ ・ １／２４ 単位	
授業方法	講義〔○〕・演習〔 〕・実習〔 〕	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「介護」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1.	介護福祉を必要とする人の理解 ①生活の理解	1コマ
2.	" ②介護福祉を必要とするひとたちの暮らし	1コマ
3.	" ③「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	1コマ
4.	" ④生活のしづらさの理解とその支援	1コマ
5.	生活を支えるサービスとは（フォーマルサービス・インフォーマルサービス）	1コマ
6.	生活を支える地域連携	1コマ
7.	介護における安全の確保・リスクマネジメント	1コマ
8.	感染症対策	1コマ
9.	多職種連携・協働の必要性と求められる基本的な能力	1コマ
10.	保健・医療・福祉職の役割と機能	1コマ
11.	多職種連携・協働の実践	1コマ
12.	介護従事者の健康管理の意義と目的	1コマ
13.	介護従事者のこころの健康管理	1コマ
14.	介護従事者の身体の健康管理	1コマ
15.	介護従事者の労働環境の整備	1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護の基本Ⅳ	
実務経験	別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科２年	
授業時間数・単位数	１５コマ ・ １単位	
授業方法	講義〔○〕・演習〔 〕・実習〔 〕	
授業の概要		
授業の到達目標	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力の引き出しを行うとともに、適切な介護技術を用いて、安全な援助技術を習得する。	
成績評価方法と基準	試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	介護現場の「困りごと」解決マニュアル 倫理的視点で読み解く30事例 (中央法規出版)	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するように心掛ける。	
授業計画（内容）		コマ数
1.	困りごとが生じる原因と解決のための条件	1コマ
2.	「問題解決の６原則」と活用方法	1コマ
3.	倫理的視点で読み解く介護現場における“困りごと”事例 ～利用者と介護職の間に生じる困りごと	8コマ
4.	〃 ～利用者と家族間、家族と介護職間に生じる困りごと	4コマ
5.	まとめ	1コマ
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ピアヘルパー	
対象学生	総合福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	カウンセリングの基礎知識の取得を通し、介護職に必要な情報収集・アセスメントを含めた様々なコミュニティで活用し、積極的な実務活動への能力を高める。	
授業の到達目標	日本教育カウンセラー協会主催「ピアヘルパー」検定試験に必要な知識の習得	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	一般的な心理学概論の知識等も学習する。積極的に興味をもてるよう関心を深めておく	
使用教科書・教材・参考書	日本教育カウンセラー協会編集「ピアヘルパーハンドブック」	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 導入・構成的グループエンカウンター		1 コマ
2. カウンセリングの定義と略史と必要性		1 コマ
3. カウンセリングの種類		1 コマ
4. ピアヘルピングと近接領域の関係		1 コマ
5. ピアヘルピングのプロセス		1 コマ
6. ピアヘルパーのパーソナリティ		1 コマ
7. 最近のカウンセリングの動向		1 コマ
8. ピアヘルピングの言語的技法		1 コマ
9. ピアヘルピングの非言語的技法		1 コマ
10. 対話上の諸問題への対処法		1 コマ
11. 問題の対処法		1 コマ
12. ピアヘルパーの心がまえ		1 コマ
13. ヘルピングスキルの上達法		1 コマ
14. 各問題と留意点		2 コマ
合 計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	福祉用具専門相談員講座	
担当教員の実務経験	介護・看護・理学療法経験	
対象学生	総合福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	34 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	高齢者が尊厳を保持し住み慣れた地域で、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、個別ケアマネジメントに基づいた福祉用具の選択・計画能力を身につける。	
授業の到達目標	「福祉用具専門相談員」として必要とされる知識・能力を身につける。	
成績評価方法と基準	各コマの達成課題の合格及び、授業態度を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	次回の学習内容の予習を行うとともに、課題の作成を行う	
使用教科書・教材・参考書	一般社団法人シルバーサービス振興会編集「新訂 福祉用具専門相談員研修テキスト第2版」	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 福祉用具の役割		1コマ
2. 福祉用具専門相談員の役割と職業倫理		1コマ
3. 介護保険法等の考え方と仕組み		2コマ
4. 福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律		1コマ
5. 介護サービスにおける視点		2コマ
6. からだとところの理解		3コマ
7. リハビリテーション		1コマ
8. 高齢者の日常生活の理解		1コマ
9. 介護技術		4コマ
10. 住環境と住宅改修		1コマ
11. 福祉用具の特徴と活用		5コマ
12. 福祉用具供給の仕組み		5コマ
13. 福祉用具サービス計画の意義と活用		6コマ
14. 事例演習		5コマ
* 指定時間数を満たすため、上記コマ数を調整し増やすことがある。		
合 計		34コマ
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活とアクティビティⅡ	
担当教員実務経験	別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科２年	
授業時間数・単位数	３０コマ	２単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	アクティビティの意義を理解し、「いきいき」と快い体験しながら生活の活性化支援の在り方・実践方法を学ぶ。	
授業の到達目標	アクティビティがQOL（人生の質、生命の質）に影響を与え、尊厳と自立を尊重することにつながることや支援の方法が理解できる。	
成績評価方法と基準	試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	「改訂アクティビティ・サービス ―心身と生活の活性化を支援する」 中央法規出版 他	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
１．アクティビティサービスとは何か ～アクティビティ・サービスとは		１
２．アクティビティ・サービスの効果		１
３．アクティビティ・サービスの対象		１
４．生活支援学としてのアクティビティ・サービス		１
５．アクティビティ・サービス計画の基本的考え方		１
６．アクティビティ・サービスプログラムの計画上の留意点		１
７．アクティビティ・サービス計画の具体的な立案方法		１
８．アクティビティ・サービスにおけるICFと支援の基本について		１
９．アクティビティサービスの実践 ～日常生活場面でのアクティビティサービス		１
１０．アクティビティサービスの実践 ～非日常生活場面でのアクティビティサービス		１
１１．体験活動を通じた支援方法の修得 （物づくり、浴衣の着付け、絵葉書、おやつ作り、外出 等）		20
合 計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活とアクティビティⅢ（音楽）	
担当教員の実務経験	ピアノ教室講師	
対象学生	総合福祉学科2年	
授業時間数・単位数	30コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	本科目では、楽譜を読み、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識と音楽理論を学び、ピアノの技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体系的な学習をする。	
授業の到達目標	音楽の基礎知識を学び、対象者に合わせ演奏技術力を高める。 福祉現場等での音楽活動に役立てる知識を身につける。	
成績評価方法と基準	出席状況・授業態度、習得状況より総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	ピアノの自主練習	
使用教科書・教材・参考書	参考：石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。 楽譜：『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
○音楽理論1 五線の線と間、小節・縦線・終止線、ト音記号読み ○グルーブレッスン ○リズム打ち		2
○音楽理論2 音符や休符の種類と名前と長さ、拍子と拍子記号、ハ音記号読み ○グルーブレッスン ○リズム打ち		2
○音楽理論3 大譜表、変化記号 ○グルーブレッスン ○リズム打ち		2
○音楽理論4 速度記号、強弱記号 ○グルーブレッスン ○リズム打ち		2
○音楽理論5 反復記号、音楽用語 ○グルーブレッスン ○リズム打ち		2
○音楽理論6「音階と調」 バイエルを弾いてみよう ○グルーブレッスン ○ボディパーカッション		2
○音楽理論7「音程と和音」 バイエルを弾いてみよう		2

○グルーブセッション ○ボディパーカッション	
○音楽理論8「主要三和音」 バイエルを弾いてみよう ○グルーブセッション ○ボディパーカッション	2
○音楽理論9「コードネーム」 バイエルを弾いてみよう ○グルーブセッション ○ボディパーカッション	2
○音楽理論10「コードネーム」 バイエルを弾いてみよう ○グルーブセッション ○ボディパーカッション	2
○音楽理論11 ハ長調の曲でコードネームを見ながら伴奏をつけてみよう「ちょうちょう」 ○グルーブセッション ○ボディパーカッション	2
○音楽理論12 季節の歌を弾いてみよう ○グルーブセッション ○ボディパーカッション	2
○音楽理論13 季節の歌を弾いてみよう ○グルーブセッション ○ボディパーカッション	2
○音楽理論14 キーボードアンサンブル ○グルーブセッション ○歌に合わせてリズムを作ってみよう	2
○音楽理論15 自分で選曲してピアノソロ演奏を発表会に向けて練習しよう ○グルーブセッション	2
	計 30
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	健康予防管理専門士資格講座Ⅱ	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 健康福祉 2年	
授業時間数・単位数	20 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	健康予防管理専門士試験に向けて学習を進めるとともに、未然に病気を防ぐ環境づくり・体力づくり・生活づくりを学ぶ。	
授業の到達目標	健康の保持と増進を進める具体的な方法や技術を身につける	
成績評価方法と基準	試験及びレポート80%、学習への取り組み20%	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	【講義時使用テキスト】 「健康予防管理専門士試験 公式テキスト」一般社団法人総合ケア推進協議会 【参考文献】 医学一般／メヂカルフレンド社、得意になる解剖生理／照林社 人体の構造と機能／メディカ出版、体の地図帳／講談社	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
科目オリエンテーション		3
健康予防管理・指導の基礎知識から演習問題。（回答の解説）		3
健康づくりの基礎知識から演習問題。（回答の解説）		3
食事・栄養に関する健康づくりから演習問題。（回答の解説）		3
高齢者の健康づくりから演習問題。（回答の解説）		3
運動による健康づくりから演習問題。（回答の解説）		3
生活習慣病と予防の知識から演習問題。（回答の解説）		3
確認問題		2
計		20
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	就職対策講座Ⅲ	
対象学生	総合福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	就職に向けた自己理解、職業指導、事業所研究、就職面接対策等を通して、福祉関係事業所へのマッチング及び就職対策を行う。	
授業の到達目標	自己覚知を基に、自ら就職活動を主体的におこなえる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート提出80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	各就職指導対策の実施ができる準備を行う（就活用用品等を揃える）	
使用教科書・教材・参考書	各授業中にプリントを配布し指示	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1.就職ガイダンス		1 コマ
2.福祉職者として必要となる自己理解		2 コマ
3.福祉専門職者の役割及び連携		1 コマ
4.身近な福祉関係事業所・施設の把握		1 コマ
5.身近な福祉関係事業所・施設の役割理解		2 コマ
6.就職面接の実際		3 コマ
7.福祉関係職者に必要となる倫理観・価値観		1 コマ
8.履歴書、お礼状の書き方		1 コマ
9.面接対策応答検討		1 コマ
10.就職面接会参加		1 コマ
11.ふりかえり		1 コマ
合 計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護総合演習・介護実習Ⅱ	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 2 生	
授業時間数・単位数	40 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	1. 会議実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 2. 地域における様々な場において、対象者の生活理解する学習とする。	
授業の到達目標	介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護総合演習の目的		1コマ
1. 介護実習の意義と目的		1コマ
3. 介護実習の種類		1コマ
4. 介護実習前の学習の意義と目的		1コマ
5. 介護実習中の態度		1コマ
6. 実習先の特徴		1コマ
7. 実習先での学び、実習記録の書き方		1コマ
8. 実習① デイサービス		8コマ
9. 実習② 訪問介護		8コマ
10. 実習③ 障害者支援施設		8コマ
11. 実習④ 入所施設		8コマ
12. まとめ		1コマ

合計 40コマ
授業単位数 2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ボランティア論	
対象学生	総合福祉学科 2 年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	阪神淡路大震災以来、ボランティアに対する価値観が多様化する中、自らが積極的にボランティアをする意義等を見出し、社会福祉施設等でのボランティアを実際に体験する。	
授業の到達目標	体験を通したボランティアに対する考え方をまとめられる。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	体調管理をしっかりとし、ボランティア体験等に参加できるようにする。	
使用教科書・教材・参考書	授業内で配布されるコピー等を利用	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 市民レベルでの社会福祉の動向		1 コマ
2. 社会福祉の歴史		1 コマ
3. ボランティアの種類・動向		1 コマ
4. ボランティアが求められる役割		2 コマ
5. 福祉職員の研修内容―ボランティアへの接し方のスーパービジョン―		1 コマ
6. ボランティア準備		2 コマ
7. ボランティア体験		6 コマ
8. まとめ・礼状の書き方		1 コマ
合 計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	情報処理概論Ⅱ（日商PC検定 データ活用3級）	
実務経験	複数法人での新規企画への事務経験等	
対象学生	総合福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	情報ネットワーク社会の急速な進展により、ワークスタイルが大きく変化する中、企業実務等における求められる業務データの処理能力、およびネットワークの利活用による事務能力等に関する基礎知識技術を習得する。	
授業の到達目標	日本商工会議所主催・日商PC検定 データ活用3級の取得	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	初心者はタイピングのスピードをあげる。	
使用教科書・教材・参考書	FOM出版「よくわかるマスター 日商PC検定試験 データ活用3級（Word2013対応）」 「よくわかるマスター 日商PC検定試験 知識科目公式問題集」	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 検定試験概要・必要データのダウンロード		1 コマ
2. 取引の仕組みと業務の流れ（見積書、発注書、請求書、領収書）		1 コマ
3. 財務諸表（貸借対照表、損益計算書）		1 コマ
4. 基本的な計算処理（四則演算、関数）		1 コマ
5. 業務で使用する計算処理（単純集計、クロス集計）		1 コマ
6. 業務データの分析		1 コマ
7. [演習]表の作成（表示形式の設定、保存）		1 コマ
8. [演習]データの集計（ピボットテーブル、データの並べ替え）		1 コマ
9. [演習]データの集計（関数による集計）		1 コマ
10. [演習]グラフの作成（凡例、軸ラベル、タイトルの入力）		1 コマ
11. [演習]グラフの作成（複合グラフの作成）		1 コマ
12. [演習]まとめ		1 コマ
13. [演習]第1回模擬問題		1 コマ
14. [演習]第2回模擬問題		1 コマ
15. [演習]第3回模擬問題		1 コマ
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護福祉総合演習Ⅰ	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科2年	
授業時間数・単位数	16コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士として必要な知識についての総合的な学習を通して、その基礎的理解を深める。	
成績評価方法と基準	出席状況と授業成果（点数）により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	各自、課題を振り返り不得意部分を復習する。	
準備学習・時間外学習	各自、授業中の課題を振り返る。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士 受験ワークブック」、その他	
授業上の注意点	各科目終了後にもう一度各授業中に行った課題を振り返る。	
授業計画（内容）		コマ数
1.模擬問題①と解説		4
2.模擬問題②と解説		4
3.模擬問題③と解説		4
4.模擬問題④と解説		4
計		16
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護福祉総合演習Ⅱ	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科2年	
授業時間数・単位数	16 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士として必要な知識についての総合的な学習を通して、その基礎的理解を深める。	
授業の到達目標	介護福祉士国家試験合格点をを目指す。	
成績評価方法と基準	出席状況と授業成果（点数）により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	各自、課題を振り返り不得意部分を復習する。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士 受験ワークブック」、その他	
授業上の注意点	各科目終了後にもう一度各授業中に行った課題を振り返る。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 模擬問題⑤と解説		4
2. 模擬問題⑥と解説		4
3. 過去問題①と解説		4
4. 過去問題②と解説		4
計		16
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護福祉総合演習Ⅲ	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科2年	
授業時間数・単位数	16コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士として必要な知識についての総合的な学習を通して、その基礎的理解を深める。	
授業の到達目標	介護福祉士国家試験合格点をを目指す。	
成績評価方法と基準	出席状況と授業成果（点数）により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	各自、課題を振り返り不得意部分を復習する。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士 受験ワークブック」、その他	
授業上の注意点	各科目終了後にもう一度各授業中に行った課題を振り返る。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 過去問題③と解説		4
2. 過去問題④と解説		4
3. 模擬問題⑦と解説		4
4. 模擬問題⑧と解説		4
計		16
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	総合実践Ⅱ	
担当教員の実務経験		
対象学生	総合福祉学科２年	
授業時間数・単位数	１５コマ ・ １単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	総合的な学習によって、充実した学生生活を送ること。	
授業の到達目標	総合的な学習によって、充実した学生生活を送ることができることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
（１）校外研修		８
（２）その他学校行事など		７
合 計		１５
授業単位数		１